

【CD33 事例研究発表】 つながる、ひろがる、Web マニュアル制作 ～ゼロから作らない！AI 時代のスマートな制作ワークフロー～

株式会社ヒューマンサイエンス

2025/8/28



ヒューマンサイエンスのご紹介

会社名	株式会社ヒューマンサイエンス	
設立	1985年	
資本金	3,000万円	
従業員数	137名	
年間売上	18億0500万円	
所在地	東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング10階 名古屋市中区栄3-2-3 名古屋日興証券ビル4階	
海外拠点	Human Science USA, Inc. (San Francisco)	
特徴	独立系の制作会社。マニュアルの制作から業務を開始 20年以上のTrados使用実績（ライセンス数：60本）	
主な事業内容	● マニュアル制作 制作・改善支援・人材派遣 ● 翻訳サービス 英日・日英・多言語翻訳 ● 機械翻訳 機械翻訳ツール MTransの提供 ● 教育ソリューション eラーニング化支援 教育コンテンツ制作 LMS（moodle/Totara）の構築・運用サポート ● AIアノテーション AI教師データ作成	

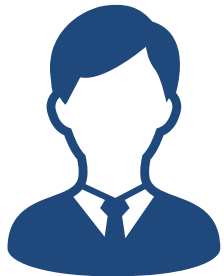


ヒューマンサイエンスのソリューション

私たちは「**多様な専門性**」×「**最新ITの活用**」で
情報をわかりやすく伝達し、効果的に活用するための
課題解決のお手伝いをします。



作り手



テクニカルコミュニケーション

マニュアル
制作

AI
アノテーション

教育・
eラーニング

翻訳・
機械翻訳

システム
(LMS/CMS)

使い手



ドキュメントの基準設計には、TCの観点が重要です

テクニカルコミュニケーション（TC）とは？

TCとは、受信者の知らない**技術的・専門的な情報や知識を、グラフィック・テキスト・音声等を通し、分かりやすく伝える技術**を指す。

・・・現代の科学技術にも幅広く応用可能であり、取扱説明書、ユーザーインターフェイス、産業翻訳などの実務はその代表と言える。

『テクニカルコミュニケーションへの招待』より抜粋／森口稔 著（三省堂出版）



講師紹介



安岡 仁之

株式会社ヒューマンサイエンス
ドキュメントソリューション部コンサルティング
グループ長

- ・ ヒューマンサイエンスに入社後、各種取扱説明書（操作マニュアル）、業務マニュアル、製品活用ガイド、教育教材の作成プロジェクトに従事
- ・ カンファレンスや大手企業などでの、セミナー講師の実績多数

近年の講演実績

- ・2019年(※)：『属人的な仕事を変えるメソッド～ツールやシステムでは解決できない要因とその解決策！～』
 - ・2023年(※)：「TCとAIの共生 ～相互補完から新たな価値を～」
 - ・2024年(※)：「生成AIを用いたナレッジマネジメント～TCによる精度向上に関する考察～」
- ※ TCシンポジウム（一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会主催）
- ・2025年(AI博覧会)：「ドキュメントのプロが語る！生成AIを用いたナレッジ活用のコツ」



吉本 卓生

株式会社ヒューマンサイエンス
ドキュメントソリューション部コンサルティング
コンサルタント

- ・ ソフトウェアベンダーにてシステム及びインフラ構築の営業に従事した経験を活かし、コンサルタントとして基幹系システムのマニュアル制作/業務マニュアルの制作改善を担当
- ・ IT企業向けのWebマニュアル構築手法の開発/セールス担当
- ・ マニュアル作成・管理ツールの導入支援なども実施
- ・ 企業向けセミナーにて、「わかりやすいマニュアルの作り方」などをテーマに講師を担当

近年の講演実績

- ・2024年TCシンポジウム『生成AIを用いたナレッジマネジメント～TCによる精度向上に関する考察～』

ヒューマンサイエンスは、 マニュアル領域での「人間と生成AIの共生」の実現を考えてきた

2019



2023



執筆にまつわる人間と生成AIとの役割分担を考察

発表タイトル：「TCと生成AIの共生～相互補完から新たな価値を～」

2024



RAGを取り上げ、生成AI×ナレッジマネジメントの実現を検討

発表タイトル：「生成 AI を用いたナレッジマネジメント～TC による精度向上に関する考察～」

2025



2025年は、生成AIを制作フローに組み込むための、 Markdownを軸にした「つながる、ひろがる」新たなフローを発表

2019 ● Markdown形式でWebマニュアルを作ることの有用性を検討

発表タイトル：「Web マニュアル30 分クッキング～Markdown にJAMstack を添えて～」

2023 ● 執筆にまつわる人間と生成AIとの役割分担を考察

発表タイトル：「TCと生成AIの共生～相互補完から新たな価値を～」

2024 ● RAGを取り上げ、生成AI×ナレッジマネジメントの実現を検討

発表タイトル：「生成 AI を用いたナレッジマネジメント～TC による精度向上に関する考察～」

2025 ● 生成AIをワークフローに組み込むための、
「つながる、ひろがる」Webマニュアル制作フローを検討

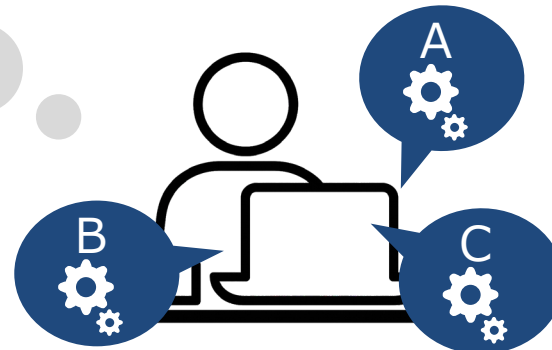
生成AIを組み込んで
アップデート

CMSを使用する場合、生成AIの活用は限定的

CMS（コンテンツマネジメントシステム）は、「一元管理できる」というメリットはあるが生成AIや最新技術の組み込みは難しい

制作の属人化

特定のツールに精通したライターに依存するため、制作体制の拡張が難しい



機能A,B,Cが一つのツール上で動く
統合管理システム

限定的な生成AI活用

利用できる生成AIや最新技術は、そのツールが実装している機能のみ

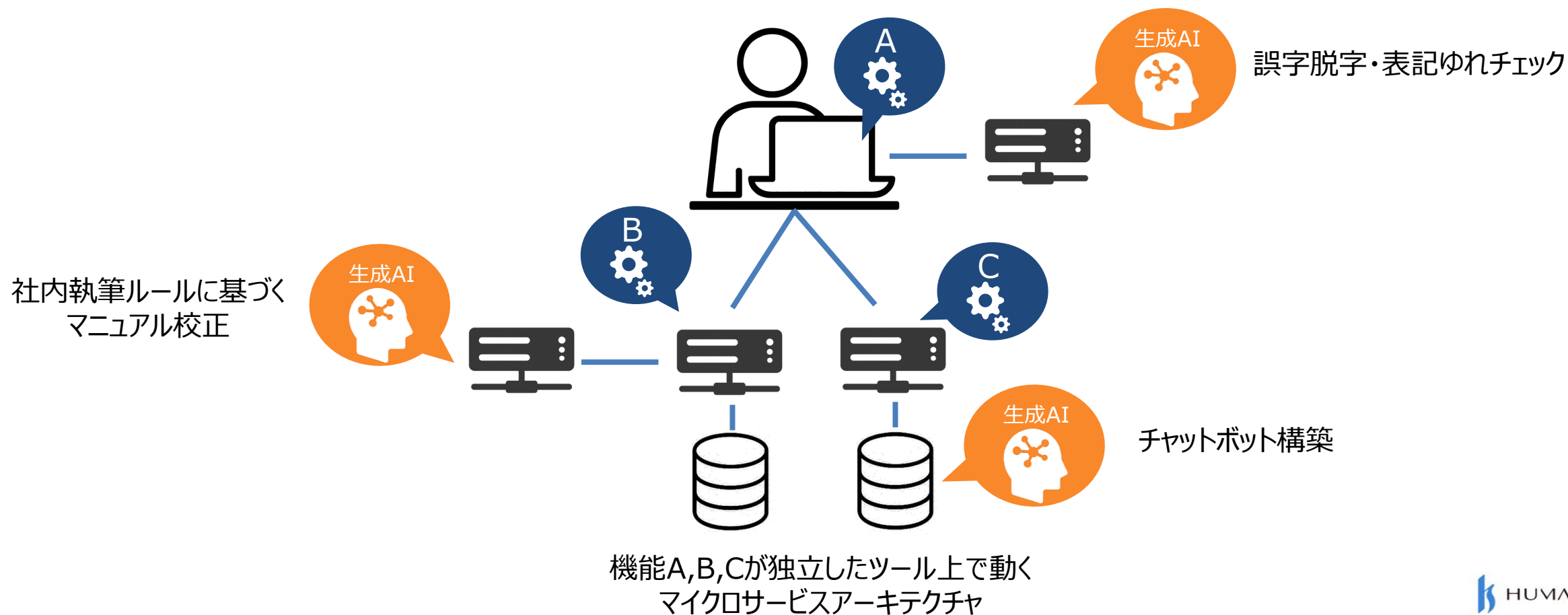
乗り換え困難

一度そのツールでドキュメントを作ると、他のツールに移行しづらい

生成AI時代のワークフローに必要なのは、「つながる」「ひろがる」こと

任意のサービスを組み合わせることで...

- つながる！** 特定の編集ツールに依存することなくニーズに合った機能を利用できる
- ひろがる！** 生成AIや最新技術とも連携できる



本日の内容

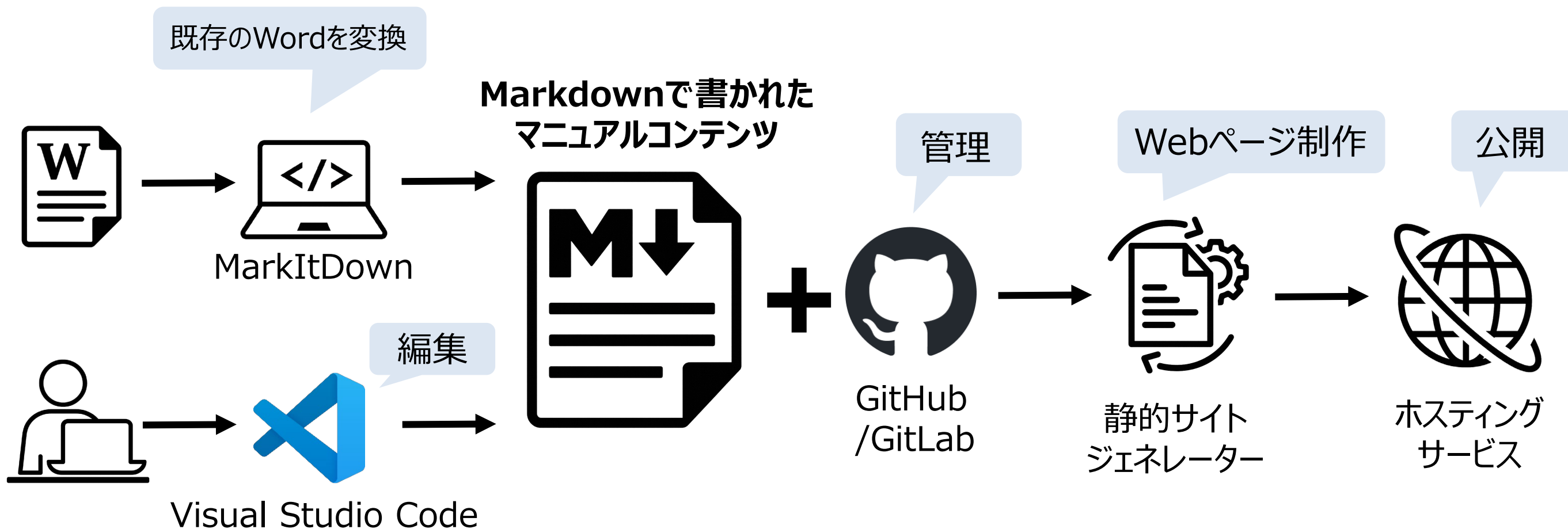
- 「つながる」ワークフロー
 - 統合管理システムから、任意のサービスをつなげたエコシステムへ
- 「ひろがる」ワークフロー
 - ワークフローに生成AIを組み込み、効率向上の可能性をひろげる
- 「ゼロから」にしない構築
 - 既存資産の活用



ワークフローの全体像は？



本日正式紹介するWebマニュアル制作ワークフローの全体像

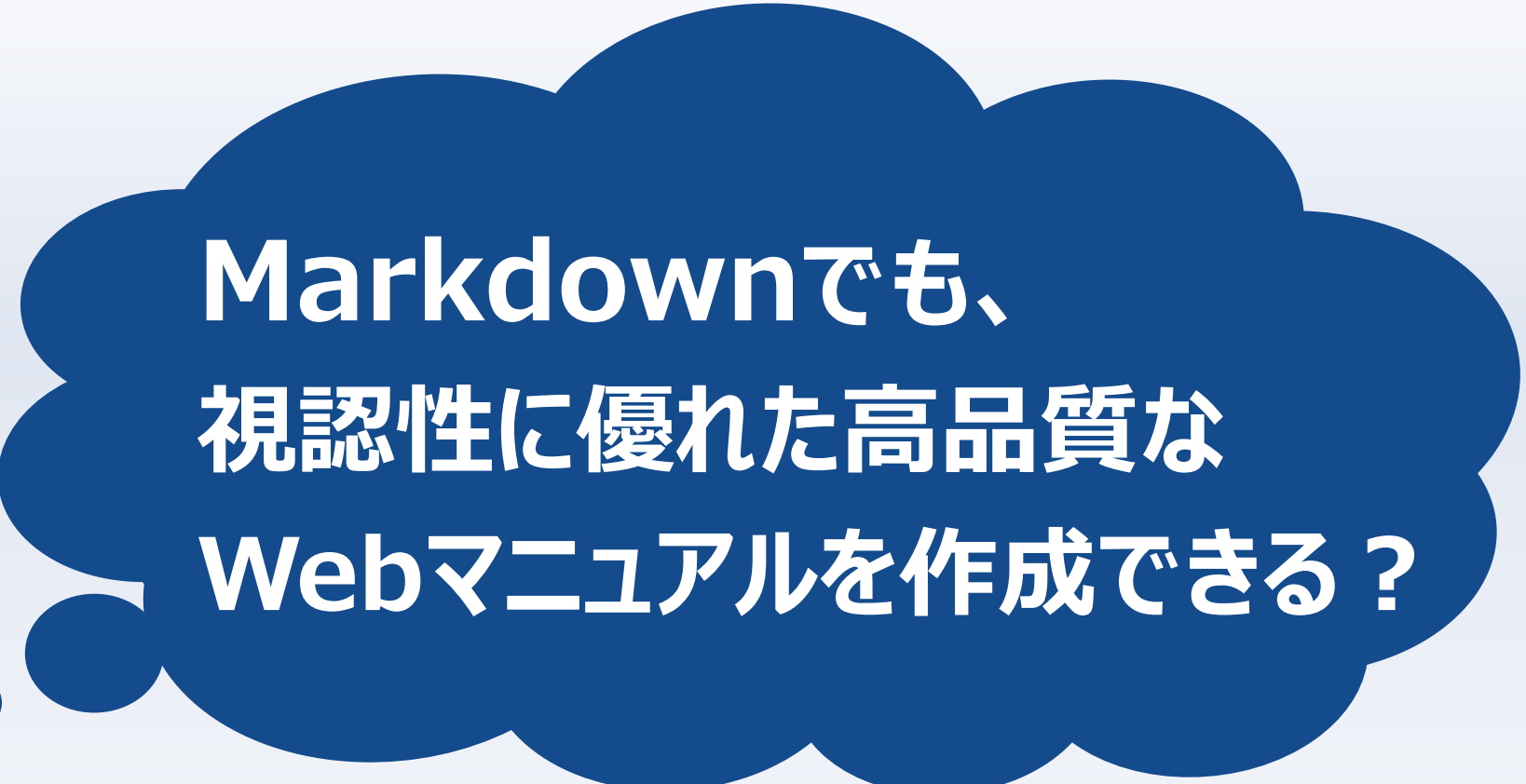




何が「つながって」いるの？



COMING SOON



Markdownでも、
視認性に優れた高品質な
Webマニュアルを作成できる？



COMING SOON

**当日デモンストレーションで
お見せします**



Markdownの
データ管理はどうするの？



COMING SOON



生成AIを組み込んで、
具体的に何ができる？

COMING SOON

WEAP-世界環境政策の発展と実現

環境政策の発展と実現

環境政策の発展と実現

COMING SOON

WEAP-世界環境政策の発展と実現
環境政策の発展と実現

当日デモンストレーションで
お見せします

そのフローは良さそうだけど、
いまさら乗り換えは大変・・・



COMING SOON

ご清聴ありがとうございました



株式会社ヒューマンサイエンス

<http://www.science.co.jp/>

東京本社……………〒163-0710 東京都新宿区西新宿2-7-1新宿第一生命ビルディング10階

TEL 03-5321-3111 FAX 03-5321-3112

名古屋オフィス…〒460-0008 名古屋市中区栄3-2-3 名古屋日興証券ビル4階

TEL 052-269-8016 FAX 052-269-8017